

第496回 放送番組審議会

1. 日 時 2014年4月15日(火) 午後1時30分～
2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室
3. 委員総数 12名

出席委員 12名

委員長	坂本 修
副委員長	柴田 和子
委員	池田 克典
委員	吉江 信博
委員	鈴木 正之
委員	平 英一
委員	國分 正人
委員	千葉 隆史
委員	嶋 誠治
委員	五日市知香
委員	丸山 謙一
委員	小川口 寛

社側出席者

檜崎 憲二	(代表取締役社長)
山口 英二	(常務取締役)
青山 尚之	(取締役報道制作局長)
菅野 智	(営業局長)
熊谷 慎也	(報道制作局次長)

事務局

遠藤 隆	(編成局長)
平井 直子	(編成局編成部副部長)

4. 議 題

1. 3月9日(日) 24:50-25:45 放送
「NNNドキュメント『14 それでも生きる 震災3年…喪失と希望』
2. その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・ 視聴者からのご意見
- ・ タイムテーブル (番組表: 4月~6月)

6. 意 見

委員側

- 釜石の旅館、宝来館のシーンは長くないが絞り込まれた、映像に意味がある凝縮された内容。復興の動きもわかった。工事で宿が取れない。狭くてもいい。宿泊させてくれ。という客の声。しかし将来に不安。東京での就職が決まりながらふるさと復興にかける若い従業員の姿にも共感できた。
- テレビ岩手だけでなく3県の部分も語りたい。演出し過ぎた部分。ナレーション、音楽が演出しすぎ。泣かせようという意図が感じられて引いてしまう。仮設にすむ人が見たらどう思うだろうかと疑問を感じた。
- 全体をみて見終わった後に自然災害に対する虚無感、虚脱感。痛みに近い感覚を持った。構成は非常によかった。しかし喪失と希望というサブタイトルで希望はあまり感じられなかった。

局側

- 私どもで制作したパートで言うと宝来館の女将の岩崎さんは3年前とは状況が変わっている。若い従業員が出てきて旅館の再生と言うことも言えた。震災を風化させないために繰り返し報道していかなければいけない。

今回の審議内容は

4月22日(火) 11:45-11:52「あなたと歩むテレビ岩手」 で放送します。